

科目	視能訓練学実習 II	必修	履修 学年	2	実習	時間数 (単位数)	72 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	1年次に学んだ手技をさらに磨き、再現性の高い検査を目指す。新たに学ぶ検査では、検査目的や対象を常に考え、正確検査と様々な症例に対応できる応用力の向上、検査時の注意点や声掛けを常に意識した授業を展開する。						
内 容							
1	眼科検査の目的と対象を再確認する	19	視野検査の目的と対象				
2	他覚的屈折検査について	20	動的視野検査の方法				
3	オートレフラクトメーターの測定	21	正常視野範囲を意識した周辺視野の測定				
4	他覚的屈折検査から自覚的屈折検査へ	22	動的視野検査				
5	オートレフの結果から自覚的屈折検査 1	23	動的視野検査				
6	オートレフの結果から自覚的屈折検査 2	24	視野検査に必要な近見加入について				
7	定性眼位検査と眼球運動検査	25	マリオット盲点の測定				
8	定性眼位検査と近見立体視検査	26	動的視野検査				
9	定量眼位検査（近見）	27	動的視野検査				
10	定量眼位検査（遠見）	28	視力検査総合				
11	定量眼位検査と眼球運動検査	29	視力検査総合				
12	定量眼位検査と近見立体視検査	30	斜視検査				
13	見え方の理解を深める（ロービジョン体験）	31	斜視検査				
14	見え方の理解を深める（ロービジョン体験）	32	視野異常の測定方法について				
15	視力検査総合	33	動的視野検査（視野異常シュミレーション）				
16	斜視検査	34	動的視野検査（視野異常シュミレーション）				
17	小児の視力検査法	35	動的視野検査（視野異常シュミレーション）				
18	単位認定試験	36	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）、目でみる視野検査の進め方（金原）							
			担当講師	松浦理恵 大瀧友矩 染谷朋美			

科目	視能矯正学実習 II	必修	履修 学年	2	実習	時間数 (単位数)	72 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	医療面接、接遇、検査時の声かけは検査結果にも大きく影響する。医療従事者として、患者との信頼関係を築くことの大切さを学び、再現性の高い検査を行うための手技と知識を身につける。さらに検査手技や検査結果の解釈及び検査上の注意点についても学び、臨床で役立つ知識と応用力を身につけていくことを目標とする						
内 容							
1	自覚的屈折検査	19	視野検査の理解を深める				
2	自覚的屈折検査	20	正常視野範囲を意識した周辺視野の測定				
3	他覚的屈折検査から自覚的屈折検査へ	21	動的視野検査				
4	視力総合	22	動的視野検査				
5	視力総合	23	HESS赤緑試験				
6	眼位検査（定量）眼球運動検査	24	HESS赤緑試験				
7	両眼視機能検査	25	HESS赤緑試験				
8	眼位検査（定量）眼球運動検査	26	レンズメーター				
9	眼位検査（定量）眼球運動検査	27	レンズメーター				
10	医療面接から視力総合	28	レンズメーター				
11	医療面接から眼位検査（定量）	29	眼底写真				
12	見え方の理解を深める（ロービジョン体験）	30	眼底写真				
13	眼球運動検査	31	眼底写真				
14	眼球運動検査	32	色覚検査				
15	大型弱視鏡を用いた9方向眼位検査	33	色覚検査				
16	大型弱視鏡を用いた9方向眼位検査	34	色覚検査				
17	大型弱視鏡を用いた9方向眼位検査	35	斜視検査総合				
18	単位認定試験	36	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）							
			担当講師	松浦理恵 大瀧友矩			

科目	基礎医学大要 II	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	眼疾患に関わりの深い全身疾病についてその臨床的特徴および検査上の注意点等について学ぶ。特に生活習慣病と呼ばれる糖尿病や高血圧性の動脈硬化は視覚機能に与える影響が大きいため、正確な知識の習得を目標として授業を展開する。現場の経験談も交え、これらの疾患がより身近な問題と捉えるように知識の吸収を促していく。						
内 容							
1	ぶどう膜の構造	10	水晶体疾患（偏位）				
2	三大ぶどう膜炎	11	水晶体疾患（混濁）				
3	黄斑部疾患	12	白内障手術				
4	加齢黄斑変性	13	視神経の構造				
5	高血圧	14	視神経疾患				
6	高血圧性網膜症	15	視神経疾患の検査				
7	糖尿病	16	未熟児網膜症、その他の網膜疾患				
8	糖尿病性網膜症	17	まとめ				
9	水晶体の構造	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、現代の眼科学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能障害学 II	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	臨床現場で得た疾患の知識を生かした授業を展開する。斜視の中でも外傷や脳血管障害によって起こる麻痺性の斜視について学ぶ。神経系の復習から始め、神経眼的なアプローチによる所見の把握及び検査上の注意点など、実際の患者を想定して、適切な検査を選択できるよう学習する。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	固定斜視(2)				
2	核・核下性麻痺の基礎	11	麻痺性斜視の手術(1)				
3	全外眼筋麻痺	12	麻痺性斜視の手術(2)				
4	重症筋無力症(1)	13	麻痺性斜視の手術(3)				
5	重症筋無力症(2)	14	Brown 症候群				
6	外眼筋ミオパシー	15	Duane 症候群(1)				
7	恒常性眼症	16	Duane 症候群(2)				
8	外眼筋炎	17	まとめ				
9	固定斜視(1)	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、現代の眼科学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能矯正学 II	必修	履修 学年	2	講義 実習	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	斜視の検査について、座学と実習を行う。前半は斜視の種類と各種検査法について学び、後半は実習を交えながら総合的に斜視検査をマスターしていく。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	斜視検査実習				
2	斜視について	11	〃				
3	斜視の種類	12	〃				
4	斜視の各型	13	〃				
5	斜視の検査法	14	〃				
6	プリズムカバーテスト	15	〃				
7	〃	16	〃				
8	定量検査の注意点	17	〃				
9	検査のポイントなど	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、目で見える視力検査							
			担当講師	大原秀徳 松浦理恵			

科目	視能訓練学 II	必修	履修 学年	2	講義 実習	時間数 (単位数)	72 (4)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	眼科検査を総合的に学ぶ。視野検査をはじめとして各種検査について手技を学び、後半は実践を行う。現場経験豊富な教員による適切な実習指導を受けることで現場で活躍する視能訓練士の育成をねらう。						
内 容							
1	授業ガイダンス	19	授業ガイダンス				
2	視野の基礎	20	実習について				
3	視野検査の座学	21	視野検査実習				
4	”	22	”				
5	”	23	”				
6	”	24	”				
7	”	25	”				
8	大型弱視鏡の座学	26	大型弱視鏡実習				
9	”	27	”				
10	”	28	”				
11	”	29	”				
12	”	30	”				
13	HESS赤緑試験の座学	31	HESS赤緑試験				
14	”	32	”				
15	”	33	”				
16	”	34	”				
17	”	35	”				
18	単位認定試験	36	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学							
			担当講師	大原秀徳 松浦理恵			

科目	基礎医学大要 III	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	主に眼疾病を中心にこれまでの学習の復習を行う。とくに眼科臨床で頻繁に遭遇しやすい代表的な疾患について学習し、知識を深める。特に感染症については適切な対応を含め、現場を想定した学習を行う。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	緑内障				
2	一般的な眼疾病の復習	11	白内障				
3	免疫とアレルギー	12	ぶどう膜炎				
4	眼瞼疾患	13	網膜疾患				
5	涙器疾患	14	硝子体疾患				
6	結膜疾患	15	眼窩疾患				
7	角膜疾患	16	眼外傷				
8	強膜疾患	17	まとめ				
9	水晶体疾患	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、現代の眼科学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能障害学特論	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	この授業ではこれまで学習してきた眼疾病について、検査上の総合的な理解を深めることを目的としている。眼科薬理学をはじめ、神経眼的アプローチ、高次脳機能障害などについて授業を展開していく。特に薬剤の点眼は侵襲性が高く、医師の具体的指示を必要とする業務であるため、適切な点眼方法を含め学習していく。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	その他の重要な薬剤				
2	薬理学概論	11	神経眼科				
3	眼科薬理学のあらまし	12	瞳孔の異常				
4	視能訓練士と薬剤の使用	13	瞳孔の検査				
5	薬剤と法律	14	高次脳機能障害1				
6	自律神経系薬剤1	15	高次脳機能障害2				
7	自律神経系薬剤2	16	高次脳機能障害3				
8	自律神経系薬剤3	17	まとめ				
9	自律神経系薬剤と検査	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視覚機能学 III	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	この授業では眼科特殊検査について学ぶ。眼科検査は視力などの一般検査と視野や眼底などの特殊検査に分けられる。眼科特殊検査はより高度な知識と技術を必要とするため、実際の機器を触りながら授業を展開させていく。臨床上遭遇しやすい疾患への適切な検査法なども自身の現場経験を生かして説明する。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	検影法				
2	眼底検査の基礎	11	超音波の性質				
3	眼底の解剖学的特徴	12	超音波検査1				
4	ビズスコープ検査	13	超音波検査2				
5	光干渉断層計 (OCT) の概要	14	IOLマスター				
6	光干渉断層計 (OCT) 検査	15	電気生理学				
7	眼科写真1	16	電気生理検査				
8	眼科写真2	17	まとめ				
9	眼科写真3	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能障害学 III	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	総合病院勤務経験と教育現場で培った知識をもとに、難解な疾患である麻痺性の斜視のうち、核上性といわれる病態について概要を学ぶ。神経眼科は学問領域が深く、高度な知識が必要とされるが、現場で生かせる知識を伝えたい。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	核間麻痺				
2	脳の構造と神経系の基礎	11	one-and-a-half症候群				
3	中枢神経	12	Vertical one-and-a-half症候群				
4	眼球運動に関わる神経核	13	眼球運動失行症				
5	眼球振盪1	14	lateropulsion				
6	眼球振盪2	15	非共同運動の異常				
7	共同運動の異常	16	回旋・耳石器官の異常				
8	水平注視麻痺	17	まとめ				
9	上下注視麻痺	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	解剖生理学 I	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	解剖学概論、生理学概論、解剖生理学I、解剖生理学IIを通じて医療系学生に必要な人体の基礎について学ぶ。1年次は人体の全体構造について学んだのち、それぞれの生理的機能について概要をまとめる。2年次では人体をミクロの視点から考察し、細胞の持つ機能、神経系の構造機能についてより深い知識を学んでいく。なお総まとめとして解剖学実習を予定している。						
内 容							
1	筋組織の構成と特徴	10	体幹を構成する骨の形態的特徴				
2	筋の形態的特徴	11	上肢帯の骨の形態的特徴				
3	上肢・下肢の筋	12	下肢帯の骨の形態的特徴				
4	頭部・体幹の筋	13	骨の組織学的構造				
5	外眼筋と眼球運動のメカニズム	14	骨実習（医学実習室）				
6	内眼筋と反射のメカニズム	15	運動器系まとめ				
7	中間試験と解説	16	総合問題演習				
8	骨の形状と形態的特徴	17	総合問題演習				
9	頭蓋骨の形態と神経経路	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
解剖生理学（人体と構造と機能）							
			担当講師	桑原俊男			

科目	解剖生理学 II	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	解剖学概論、生理学概論、解剖生理学I、解剖生理学IIを通じて医療系学生に必要な人体の基礎について学ぶ。1年次は人体の全体構造について学んだのち、それぞれの生理的機能について概要をまとめる。2年次では人体をミクロの視点から考察し、細胞の持つ機能、神経系の構造機能についてより深い知識を学んでいく。なお総まとめとして解剖学実習を予定している。						
内 容							
1	個体の階層性	10	先天性免疫不全症候群と後天性免疫不全症候群				
2	上皮組織の形態、結合組織の特徴	11	心臓・血管障害と眼科系疾患との関連				
3	神経組織・筋組織の特徴	12	ホルモンの分泌異常と眼科系疾患の関連				
4	受精のメカニズムと胚葉の分化	13	神経系疾患と眼科系疾患との関連 1				
5	生殖細胞の細胞分裂	14	解剖学実習				
6	器官発生のメカニズム	15	解剖学実習				
7	中間試験と解説	16	総合まとめ				
8	生体防御のしくみ	17	総合まとめ				
9	抗体産生のメカニズム	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
解剖生理学（人体と構造と機能）							
			担当講師	桑原俊男			

科目	医療学概論 I	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	視能訓練士国家試験対策を行う。過去の国家試験問題を様々な分野から選出し解かせ、国家試験対策ノートとしてまとめる事で個々の苦手分野を知り、理解を深め、国家試験に対する対策を強化する事を目標とする。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	国家試験問題演習				
2	国家試験問題演習	11	国家試験問題演習				
3	国家試験問題演習	12	国家試験問題演習				
4	国家試験問題演習	13	国家試験問題演習				
5	国家試験問題演習	14	国家試験問題演習				
6	国家試験問題演習	15	国家試験問題演習				
7	国家試験問題演習	16	国家試験問題演習				
8	国家試験問題演習	17	国家試験問題演習				
9	国家試験問題演習	18	国家試験問題演習ノート確認				
評 価							
出席率、授業態度、国家試験問題演習ノート内容の確認をし総合的に判断し単位を認める。ノートの再提出を認める事がある。							
教 材							
視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、イラスト眼科（文光堂）、配布プリント他							
			担当講師	染谷朋美			

科目	保健医療福祉学 II	必修	履修 学年	2	講義 実習	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	一年次に勉強した接遇やマナーを実際に体験し、身に着けるための時間。後半は国家試験に向けての授業を行い、国家試験の対策を行う。						
内 容							
1	ガイダンス	10	国家試験対策授業				
2	接遇・マナー実習	11	国家試験対策授業				
3	接遇・マナー実習	12	国家試験対策授業				
4	接遇・マナー実習	13	国家試験対策授業				
5	接遇・マナー実習	14	国家試験対策授業				
6	接遇・マナー実習	15	国家試験対策授業				
7	接遇・マナー実習	16	国家試験対策授業				
8	接遇・マナー実習	17	国家試験対策授業				
9	国家試験対策授業	18	定期試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			

科目	視覚機能学 II	必修	履修 学年	2	講義 実習	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	眼科において必要な検査を反復実習や講義をしていく。基礎を忠実に身に着けた上で、応用も取り入れていく。検査の意味や、理論を理解し、より記憶の定着を促す。						
内 容							
1	ガイダンス	10	GPの記載				
2	GP準備	11	GPの手技確認と測定				
3	輝度調整	12	GPの手技確認と測定				
4	眼瞼挙上の練習	13	GPの手技確認と測定				
5	遮蔽の練習	14	GPの手技確認と測定				
6	GPの手技確認	15	GPの手技確認と測定				
7	GPの手技確認	16	GPの手技確認と測定				
8	GPの手技確認	17	まとめ				
9	GPの記載	18	定期試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、目でみる視野検査の進めかた、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩 染谷朋美			

科目	視能検査学実習 II	必修	履修 学年	2	実習	時間数 (単位数)	72 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	眼科において必要な検査を反復実習していく。基本を忠実にいき、検査の理論や手順を理解させることが目的						
内 容							
1	授業ガイダンス	19	Hirschberg				
2	視力検査	20	眼球運動検査				
3	視力検査2	21	輻湊近点検査				
4	視力検査3	22	眼位の定性				
5	放射線乱視表	23	眼位の定量				
6	放射線乱視表2	24	眼位の定量				
7	放射線乱視表3	25	TNO				
8	スキア検査	26	TST				
9	Bagolini線条ガラス試験	27	TNO				
10	Worth4灯試験	28	TST				
11	フリッカー検査	29	Lang stereo test				
12	クロスシリンダー	30	Lang stereo test				
13	クロスシリンダー2	31	大型弱視鏡（自覚的斜視角）				
14	オートレフラクトメーター	32	大型弱視鏡（他覚的斜視角）				
15	オートレフラクトメーター2	33	大型弱視鏡（融像）				
16	大型弱視鏡	34	大型弱視鏡（立体視）				
17	大型弱視鏡	35	まとめ				
18	定期試験	36	定期試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、目でみる視力・屈折検査の進めかた、配布資料等							
			担当講師	染谷朋美 大瀧友矩			

科目	視能検査学 II	必修	履修 学年	2	講義 実習	時間数 (単位数)	72 (4)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。検査目的、対象、検査手技、検査結果の解釈および検査上の注意点等について学ぶ。臨床で役立つよう知識や応用力を身につけてもらうことを目標としている						
内 容							
1	授業ガイダンス	19	オートレフを使用した視力検査1				
2	斜視学（講義）	20	オートレフを使用した視力検査2				
3	〃	21	Hirschberg				
4	〃	22	眼球運動検査				
5	斜視の検査（講義）	23	幅湊近点検査				
6	〃	24	眼位の定性				
7	〃	25	眼位の定量				
8	プリズムを用いた定量検査（実習）	26	眼位の定量				
9	〃	27	ビズスコープ				
10	〃	28	CFF				
11	大型弱視鏡（講義）	29	立体視検査				
12	〃	30	動的視野計				
13	〃	31	動的視野計				
14	大型弱視鏡の検査	32	動的視野計				
15	〃	33	静的視野計				
16	〃	34	レンズメーター				
17	〃	35	まとめ				
18	定期試験	36	定期試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、目でみる視力・屈折検査の進めかた、目でみる視野検査の進めかた、配布資料等							
			担当講師	大原秀徳 大瀧友矩			

科目	医療学概論 II	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	看護につき学び医療の安全を高めていくことが目標、後半は視能訓練士国家試験対策を行う。問題を解き、解説を聞くことで国家試験に対応できる学力を身につける。苦手な箇所を自覚し克服できるようアドバイスを与える。						
内 容							
1	ガイダンス	10	国家試験問題演習				
2	看護とは	11	国家試験問題演習				
3	看護とは	12	国家試験問題演習				
4	看護とは	13	国家試験問題演習				
5	誘導方法	14	国家試験問題演習				
6	誘導方法の注意点	15	国家試験問題演習				
7	誘導方法の基本形	16	国家試験問題演習				
8	車いすの取り扱い	17	国家試験問題演習				
9	車いすの取り扱い	18	定期試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能訓練士セルフアセスメント、視能学（文光堂）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			